

第 58 回日本生殖医学会学術講演会・総会が 2013 年 11 月 15 日（金）及び 16 日（土）に神戸で開催され、院長含め医師三名、培養士七名、看護師四名が参加しました。今回は培養士二名が学術発表を行いました。

テーマ ・『AMH14ng/ml（10pmol/L）以下の症例における排卵誘発の有用性』  
・『胚移植法の新しい試み』

『AMH14ng/ml（10pmol/L）以下の症例における排卵誘発の有用性』では、AMH14ng/ml(10pmol/L)以下の症例に対して、クロミッド+リコンビナント FSH+アンタゴニストという当院独自の誘発方法により、AMH 値からの採卵予測数の約二倍数の卵子を獲得できたことを発表しました。排卵獲得数の増加は、その後の発育胚数、移植階数及び妊娠の可能性の増加に有効であることを意味しています。

また『胚移植法の新しい試み』では現在当院で施行している経膈超音波ガイド下での肺移植法が、従来法よりも患者様の負担が少ないこと、移植時間の短縮や、より明瞭な断層像を得られることにより、妊娠率、着床率ともに高い傾向にあることを発表しました。

2 日間に亘る学術講演には多種多様のテーマの発表がされました。

新しく得られた様々な知識を、当院が理念とする患者様一人一人にあわせたテーラーメイドの治療に役立てていきたいと、改めて実感できる学会参加になりました。